学校全体を木に包まれた学びの場に

さくら小学校（大阪府守口市）

本事例のキーワード

柔軟な学習空間　インクルーシブ教育　複合化　地域と連携　木材利用　小学校

事例のポイント

校舎中央に配置したメディアセンターを中心として、学校全体が学びの場となるよう様々な設計上の工夫が凝らされている。

高齢者の交流施設、交番と複合化されており、地域における学び・交流の拠点となっている。

事例概要

守口市では、小・中学校においてより良い教育環境づくりを進めるため、平成24年3月に「守口市学校規模等適正化基本方針」を策定している。本方針に基づき、学校規模の適正化や適正配置を進めていく中で、平成30年に２校を統合したさくら小学校を新設することが決定し、統合に伴い新校舎を旧小学校の跡地に建設することとされた。

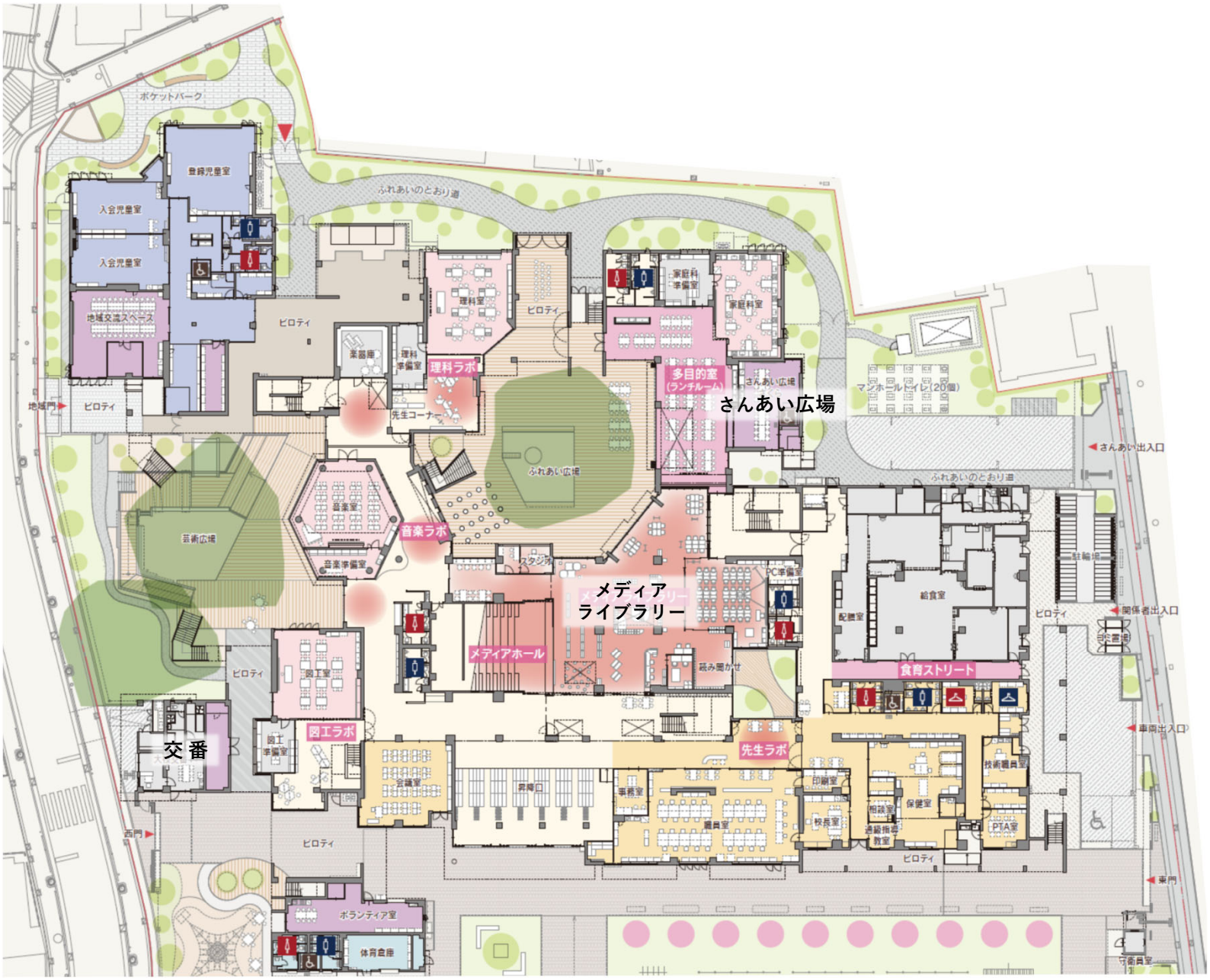
新校舎の計画に際しては、子どもたちの学びの場として、また地域活動の拠点として親しまれるよう、教職員によるワークショップと、学校、保護者、地域住民によるワークショップの２つのワークショップを開催し、そこでの意見も踏まえ、「学校全体が学びの場となること」「地域における学び・交流の拠点となること」をコンセプトに進めることとした。

令和３年に完成した新校舎は、周辺の戸建て住宅群に溶け込むよう３階建で整備されている。普通教室前には「アクティブスペース」として少人数授業での利用や発表・展示の場所として活用できる場をつくり、学校全体で学びを展開できるようになっている。また、すべての特別教室の前には「ラボ」と名付けた空間を設け、いつでも実験器具などの教材に触れ、学ぶことができるよう工夫するなど、学校全体が主体的・対話的で深い学びの場となるよう計画されている。

また、新校舎には、小学校のほかに、「さんあい広場」（高齢者の交流施設）、大阪府警の交番が複合化されており、保護者と地域がともに支える学びの場となっている。

CO-SHA PLATFORM
CO-SHA Platform ウェブサイト
https://www.mext.go.jp/co-sha/

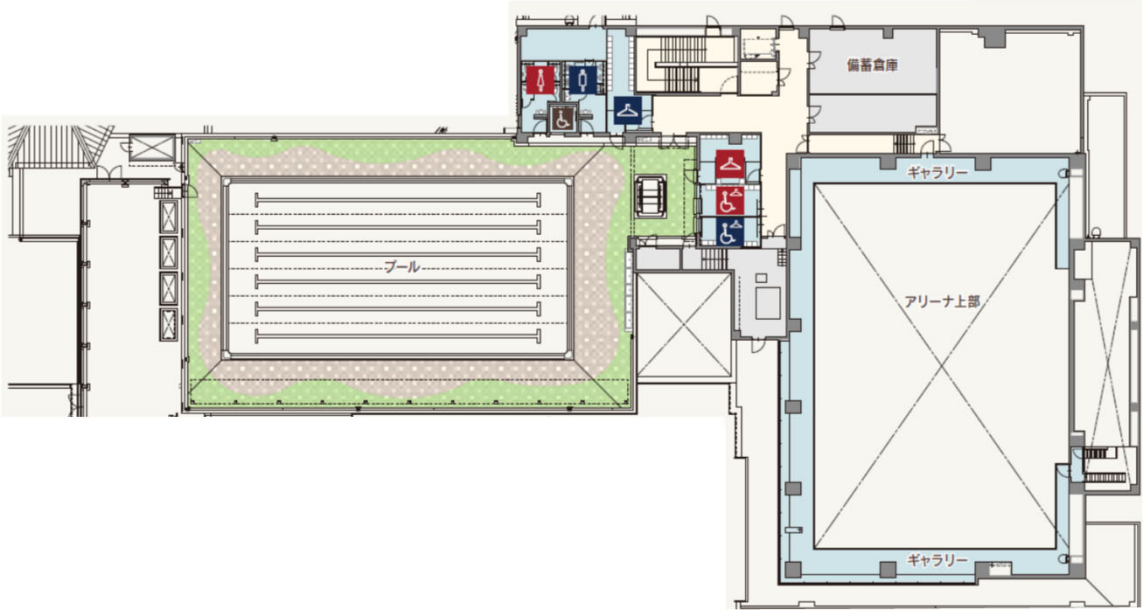
配置図兼１階平面図


ポケットパーク
登録児童室
入会児童室
入会児童室
地域交流スペース
ピロティ
地域門
ふれあいのとおり道
理科室
ピロティ
家庭科準備室
家庭科室
楽器庫
理科準備室
理科ラボ
先生コーナー
多目的室
(ランチルーム)
さんあい広場
マンホールトイレ(20個)
さんあい出入口
ふれあいのとおり道
ふれあい広場
音楽室
音楽ラボ
音楽準備室
芸術広場
スタジオ
PC準備室
メディア
ライブラリー
メディアホール
読み聞かせ
給食室
配膳室
駐輪場
ピロティ
関係者出入口
食育ストリート
ピロティ
図工室
図工ラボ
図工準備室
交 番
会議室
昇降口
事務室
先生ラボ
職員室
印刷室
校長室
相談室
通級指導教室
保健室
技術職員室
PTA室
車両出入口
西門
ピロティ
ピロティ
東門
ボランティア室
体育倉庫
歯科医室

2 階平面図

普通教室
アクティブスペース
多目的スペース
メディアホール
特別支援教室おおぞら1
特別支援教室おおぞら2
特別支援教室おおぞら3
アリーナ
観察デッキ

3 階平面図


備蓄倉庫
ギャラリー
プール
アリーナ上部

事例ポイント１

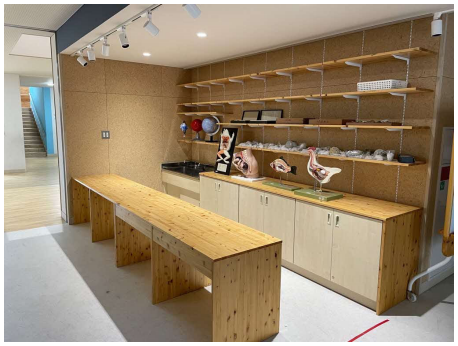
多様な学習活動を展開できる環境づくり

昇降口から入った正面に計画されているメディアライブラリーが学校の中心である。メディアライブラリーでは、子どもたちの自主的・自発的な学習や協働的な学習が展開されており、すぐ隣の階段状につくられたメディアホールは、調べたことの発表や、学年間だけではなく、異学年の成果発表の舞台としても活用されている。

メディアライブラリーで
読書を楽しむ子どもたち

メディアライブラリーとともに
学校の中心として機能するメディアホール

子どもたちの興味関心を誘発し、自由に学びを深めることができるよう、１階の特別教室の周りや職員室前には「ラボ」と名付けた場が整備されている。ラボには各教科に関する実験器具や資料にいつでも触れることができる設備を設えている。また、職員室前の「先生ラボ」は、先生に気軽に質問ができる場所として活用されている。



理科ラボ

先生ラボ

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる上で、多様な学習活動に柔軟に対応できる空間を整備することが重要である。さくら小学校では、２階の普通教室は学年ごとにまとまりのある配置とし、教室周囲には少人数学習や学年間の交流に柔軟に活用できる「アクティブスペース」を設けている。低学年のアクティブスペースには、憩いや落ち着きを確保する居場所として小上がりを設えたデンを整備し、中高学年のアクティブスペースには、学年単位での少人数学習や学年交流などの協働作業を進めることができるように、ベンチや組み合わせ家具を各所に設えている。

低学年エリアのアクティブスペース

中高学年エリアのアクティブスペース

事例ポイント２

インクルーシブな教育環境

さくら小学校では、全ての子どもの障がいに対する理解を深化することを目指してインクルーシブ教育に力を入れている。新校舎においては、インクルーシブ教育を一層促進するため、すべての普通教室・特別支援教室を同一フロアに配置している。

また、特別支援教室３室はアクティブスペースでつながっており、畳コーナーのある教室、可動壁で分割できる教室、クールダウンできる部屋などで構成されており、支援を必要とする子どもに合理的配慮が行えるように計画されている。

特別支援教室の様子

特別支援教室に設けられた畳コーナー

事例ポイント３

保護者も地域もともに支える学びの場

さくら小学校では、地域住民と協働する田畑や花壇、ボランティア室を整備するとともに、地域の方々が外部から直接出入りして単独で利用できるように特別教室を１階に配置している。

１階に整備された多目的室では、毎週金曜日の放課後、保護者や地域の学習ボランティアによる宿題応援教室が開かれている。また、図書ボランティアは学校司書や図書委員会とともにメディアライブラリーの企画展示や様々なディスプレイづくりを担当している。その他、環境ボランティアが学級園や花壇の栽培活動を支援しており、一緒に育てたお米でつくったおにぎりのパーティーに地域住民を招待するなどの交流にもつながっている。

また、複合化された「さんあい広場」（高齢者の交流施設）は、地域の高齢者と学校の共創の場として多様な活動が展開できるよう、多目的室と隣接させて整備している。

小学校の一部として組み込んだ交番は、児童の登下校を見守るなど、地域と児童の安全・安心に貢献している。

このように、さくら小学校では、保護者や地域による学校への支援が多方面に及んでいる。

環境ボランティアによる栽培活動

児童の登下校を見守る交番

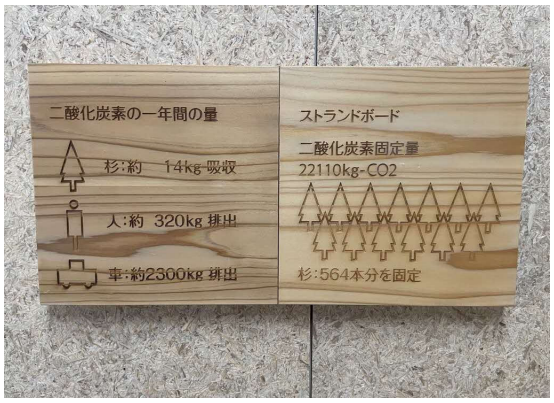
事例ポイント４

自然とふれあい健康に育つ環境

敷地内には樹齢百年を超えるといわれる３本のクスノキが地域住民の要望を受けて保存されている。校舎はクスノキを中心に配置されており、子どもたちが四季を感じ自然にふれあい健康に育つ環境が実現されている。また、光庭やハイサイドライト、トップライト、大開口により、自然採光を積極的に取り込んでいる。普通教室には、換気能力にも優れたハイサイドライトをとり、自然採光を最大限に確保し、省エネルギー対策を行っている。特に、内装は出来る限り木質化するとともに、２階の普通教室部分の屋根架構を木造としている。

環境配慮の取組に関する見える化も行っている。屋根を支えるトラス材の廃材を有効活用したサインの制作、木質内装材によるCO_2固定量を表示するサインの設置、太陽光発電による発電電力の見える化など、各所で児童が環境やリサイクルに興味を持つきっかけを作ることで、児童の学びの循環につないでいる。

ハイサイドライトによる
自然採光・自然換気



内装材のCO_2固定量を
紹介するサイン

学校概要

さくら小学校
大阪府守口市

全体工期：令和元年６月～令和３年３月
学校規模：23学級、543人
敷地面積：16,258㎡
延床面積：10,316㎡
構造：RC造、木造（一部S造）３階建
※令和５年２月時点